ボランティア活動グループ訪問記

オジャマシマス

地域とのコミュニケーションを大事に
野菜の移動販売 〝つどや〟

令和4年もコロナ感染症対策を取りながら、日常を取り戻しつつ、慌ただしく過ごしているうちにもう師走。12月6日ボランティア協会事務局で、野菜の移動販売つどや代表の小川豊（おがわゆたか）さんにお話を伺いました。販売の様子は後日改めて取材をさせていただくことにしました。

◆つどやを始めたきっかけは?

以前、農産物直売所に勤めていましたが、「地域のために役に立つことがしたい」という想いがありました。その頃、高齢化が進み「買い物難民」という言葉をよく耳にするようになりました。買い物に苦労している方は都市部でも増えていると感じ、移動販売を始めようと思いました。2019年6月に一人で始めました。車を購入し品物を並べやすいように工夫をしたりしています。

◆野菜の仕入れは?

地元相模原の農家さんの野菜や横浜市場から新鮮な野菜等を仕入れています。

◆販売日、地域は?

販売日は月曜日～金曜日の週5日で、月水金、火木とコースが異なります。地域は相模原市内を中心に県営上溝団地や店舗駐車場等で、お声を掛けていただいた場所で行っています。

笑顔も素敵な小川さん

◆1ヶ所の集客人数は?

40人位の所もあれば5～6人の所もあり、高齢者が多いですが若い人が多い場所もあります。人が集まれば「こんにちは」「元気だった?」などの会話が生まれ、販売だけでなく、携帯電話の使用法を教えたり、椅子の組立、お客様に店番をお願いして、重い荷物をお客様の自宅まで運ぶなど、困っていることに対応して信頼関係を築きコミュニケーションを大事にしています。

◆将来の希望は?

まだまだ需要があっても入れない場所も多く公共機関に協力をお願いしています。高齢者がもっと身近でお買物ができる場所が沢山増えれば良いなと考えています。

高齢者に対する優しい思いを感じました。翌週の12月16日実際に移動販売の様子を見学させていただきました。場所は県営上溝団地旧さくらストアの前。一人で野菜を並べ開店準備をする小川さん。お客様もぽつぽつと集まり始め、お互いに挨拶や言葉を交わしながら並べられた野菜を吟味しています。野菜を見れば大小さまざま、形もいびつであったりの規格外品もあり20数種類の品揃いです。規格外品であっても味は変わりません。規格外品も販売することで、生産時の食品ロスの削減に繋がります。小川さんはお客様の様子を見ながら声かけをしています。調理方法の説明に他の人も加わり話の輪が広がっていました。一人でレジもやるので行列ができますが、その前後の人同士でまた会話が生まれ、お客様もとっても楽しそう。

また農家さんからの野菜の寄付や遊技場からお菓子の寄付を社会福祉協議会や子供食堂に届け、提供者と受ける側の架け橋的な活動も行っているそうです。まさに小川さんが目指す買物弱者支援や地域コミュニティ活動なのかなと思いました。一生懸命、SDGsに取り組む姿がみられました。

これからもこの様な笑顔の場がたくさん増えると良いですね。頑張ってください。師走の忙しいなか対応いただきましてありがとうございました。

（恒藤、小山）

みなさんほんとうに楽しそうにお買い物を！

＊連絡先
小川豊さん
080-1072-1411
tsudoya@gmail.com

＊関連記事を5ページに掲載しています。